



昭和三十五年十二月刊
早稲田大学図書館紀要第二号按刷

館藏 二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

——坪内雄藏氏寄贈記念図書——

高野明

特別
14
2090
75 (2)



蔵館 二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

——坪内雄藏氏寄贈記念図書——

高野明

まえがき

明治文学談話会編『明治文学研究』第一巻第十号「二葉亭資料号」（昭和九年十月・耕進社刊）に、神崎清氏が「二葉亭関係文書」の解題をされている。その第三「二葉亭蔵書目録」（早大図書館寄託書目録）について、神崎氏はつぎのように注を加えられている。

これは二葉亭の死後、その蔵書を遺族から早稲田大学図書館へ寄贈したに對する、領収の文書である。（和漢書之部は省く）二葉亭がロシアで購入した書籍（露文日記参照）の外に、文学書、語学書が多いのは当然だが、文学書のなかには、二葉亭の青年時代の教養を形づくつたものもあり、翻訳の原本もある。ロシア関係、社会主義関係の諸文献も、精査すれば意外な発見をもたらすにちがひない。いづれにせよ、二葉亭研究者の見のがせぬコレクションである。（原文ノママ）

さて、右の目録は非常に重要なので、勞をいとわずに原文のままを示しておこう。蔵書の大部分は露文献で、英文一冊、独文一冊のほかはすべてロシア語の原書である。本館取蔵の原本について見れば、著者名・書名の訳文は、若干の例外はあるが、二葉亭が各冊の表紙に墨書した標記をそのまま用いている。

二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

第三、二葉亭藏書目録

(長谷川二葉亭早稲田大学
図書館寄託書目録)

洋書之部

- | | | | | |
|---------------|----------------|----|-------------------|----|
| 狼の満腹 | ネミロウイチクダンチエンコ作 | 一冊 | カル、マルクス | 一冊 |
| 大胆勇敢ニシテ強力ナルモノ | 同 | 一冊 | レオニール、アバレエフ氏文集 | 一冊 |
| 兄弟ノ墳墓 | 同 | 一冊 | ゴルブウノフ氏文集 | 一冊 |
| 二個ノ日記 | 同 | 一冊 | セロシエーフスキー氏文集 | 二冊 |
| 短篇集 | アンドレエフ作 | 三冊 | フウシキン氏文集 | 二冊 |
| 物語 | 同 | 一冊 | ベリンスキー文集 | 六冊 |
| 物語数種 | コロレンコ作 | 一冊 | 美術ト實際 | 一冊 |
| 短篇集 | 同 | 二冊 | 現今ノ美辭的初歩 | 一冊 |
| 短篇集 | ガルシン作 | 一冊 | 哲学的自評マルクシイーズム | 一冊 |
| 復活 | トルストイ作 | 一冊 | 批評文学 | 一冊 |
| オフルイフ | ゴンチャロフ作 | 二冊 | 文学上ノラスバード | 一冊 |
| 静ナル穴中 | メレジコーフスキー作 | 一冊 | 西欧文学概観 | 一冊 |
| トルストイの宗教 | トルストイの文章評 | 一冊 | 實用書翰文範 | 一冊 |
| 詩作 | アナトリー、フズンス作 | 一冊 | 書翰文範 | 一冊 |
| 地球 | 諸文豪作 | 一冊 | ホストネフ氏ノ日本史ヲ評ス | 一冊 |
| チエホフ以下諸文豪 | チエホフスキー作 | 一冊 | 史論 | 一冊 |
| | | | ナポレオン、ボナパルトの立身 | 一冊 |
| | | | 旅順包囲ノ若士官ノ戦争及捕虜ノ観想 | 二冊 |

- | | | | |
|--------------------------|----|---|------|
| 独逸語ノ鍵 | 一冊 | 勤務上ノ経験 | 一冊 |
| 西藏医学 | 一冊 | 独逸語ノ実地研究案内 | 一冊 |
| 露国統計 | 二冊 | 外国語辞典 | * 二冊 |
| 一千九百零六年十一月布達ニ際シテ | 一冊 | スラウヤン辞典 | * 二冊 |
| 十九世紀ノ仏蘭西政治運動及革命騒擾 | 一冊 | アレキサンダー露英対訳字典 | 一冊 |
| 露西亜文法 グレーボフ編(明治卅六年六月十八日) | 一冊 | 満洲記事 | 一冊 |
| 言葉及生活 | 一冊 | ノーウオエ、ウレーミヤ出版ノ書籍目録 | 一冊 |
| 露国ノ経済及財政 | 一冊 | エドウウイン、アルノルドの亜細亜ノ光 | 一冊 |
| 露国財政 | 一冊 | モスコウ案内 | 一冊 |
| 現今ノ社会主義問題 | 一冊 | ペテルブルグ案内 | 一冊 |
| 廿世紀ノ初年ノ露国ノ社会活動 | 一冊 | ペテルブルグの図 | 一冊 |
| 男女ノ両性及性質 | 一冊 | 露国地図 | 三枚 |
| 現今ノ独逸 | 一冊 | Chinese Mother Goose Rhymes. Isaac Taylor | 一冊 |
| 日露戦争ノ十ヶ月 | 一冊 | Headland | 七冊 |
| 露国憲法 | 一冊 | 無訳名ノ書物 | 三部 |
| 立法権 | 一冊 | (後ヨリ玄太郎氏ヨリ受取シ分モ含ム) 九十三冊 | 七冊 |

長谷川 柳子 様

早稲田大学図書館ニテ 坪内大蔵造(坪内)

以上が目録の全部であるが、*印を附した図書は、現在本館には見あたらない。しかし、たとえば右の目録中に見える『書簡文範』または『実用書翰文範』というのは、現存するスバルヴィン著『日本人の言語と読み書きの基本』について、一九〇〇年九月二日の東洋学院における序説的講義『ウラジヴォストーク・一九〇〇年刊』のことではないかと推定される。本書には、二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

葉亭は訳名の標記はしていなくても、内容の一部分として文語体書簡文を含んでいる。従って、右の目録作成に際して仮題として付したのかとも思われる。しかし、いずれにせよ右の目録は、二葉亭自身のメモのために標記したタイトルをそのまま写しているので、目録の体裁としてはきわめて不完全なものである。幸い、本学文学部教授稲垣達郎氏が、数年前に二葉亭蔵書の調査をされたので、その折に筆者も立ち会って実物と照合してリストを作成した。現存する露文獻五九部八二冊には、いずれも「早稲田大学図書館記念図書」の朱印を押捺し、そのなかに「故二葉亭四迷 長谷川辰之助氏 昭和六年九月坪内雄藏氏寄贈」と記されている。既述の目録の末尾に見える坪内大藏氏は、逍遙博士の甥（長兄の長男）で、明治四十一年に本学国語漢文科を卒業、ただちに図書館に勤務し、大正十三年七月に急逝されるまで和漢書係に在職された方である。大藏氏は、逍遙博士の秘書のような存在で、博士の用事を丹念に遂げられていた由で、右の露書も、多分大正の初期に二葉亭の遺族から博士に寄託されていたものを、博士の方から正式に寄贈図書として早大図書館に保存するように、大藏氏に委嘱されたものと推定される。坪内博士は、二葉亭・馬場孤蝶・島村抱月などと親交があったから、博士が二葉亭の旧蔵書を遺族から受けられたことは至極当然の成行きであろう。この間の事情は、大藏氏の在館中から昭和二十二年まで和漢書係主任を勤められた宮川貞二氏の御教示に依るもので、既述の目録末尾に目付がないのは、おそらく博士自身が書き入れる予定だったのが、そのままになって残されたのではないかと、宮川氏は推定されている。ちなみに、「早稲田大学図書館記念図書」の朱印は、明治四十年の本学二十五周年記念祭の折に、吉田恵三郎（半迂）氏が彫刻されたもので、印内の「故二葉亭四迷 長谷川辰之助氏 昭和六年九月坪内雄藏氏寄贈」のペン書きは、当時の受入係主任東海林治彦氏の筆跡である。

右の通りの事情であるが、それをさらに点検してなるべく詳しい目録に改め、著者・書名・出版社・刊地・刊年・頁数・地図・図版・書入れの有無・内容の大略を明らかにして大方の参考に供するのが筆者の意図である。もとより不備な個所が目立ち、完全を期することは到底筆者の任ではないように思われるが、識者の御教示をえて将来に資する意味で編纂した。微意を汲んでいただければ後進の身として望外の喜びである。

凡 例

- 一、本目録は、原則として著者名辞書体目録の形態に編成し、ロシア語のアズブカ（アルファベット）順に排列した。会報・論文集その他、定期刊行物に準ずる図書は書名から記入した。著者・編者等は、なるべくフルネームで示したが、未詳の場合にはイニシャルで名前と父姓を示した。著者・編者などに直結する（ ）内は生没年データである。邦訳の場合は、（ ）内の生没年は省略した。
- 二、全集・選集などの場合は、巻号と内容を略示した。邦訳文はなるべく直訳を旨としたが、あまりにも不自然な場合には若干の意訳を試みた。
- 三、出版事項は、原文の判読を妨げない程度に省略した。版元は、必ずしも出版社名に限らず、印刷所名を充当した場合もある。また、頁（стр.）・挿絵および図版（илл.）・地図（карт.）・扉絵（фронт.）・監修（ред.）・編集（сост.）・巻（т. часть. кн.）などは、当該図書に示されているとおりに記録したが、邦訳文の場合は、とくに必要のない限り均等に同一の訳語を用いた。
- 四、文献解題には、主として Varinhart, C. L. (ed.): *New century cyclopedia of names*. v. 1-3. 3v. New York, c1954. *Большая советская энциклопедия*. т. 1-52. 52т. Москва, 1949-1960. 岩波版『西洋人名辞典』（昭和三十一年刊）、岩波版『二葉亭四迷全集』（昭和二十八・二十九刊）を用いた。
- 五、露文目録は、原書に従い、旧正字法の場合はそのままを記録し、新正字法には改めなかった。ただし、活字の制限上、硬音符は省略し、旧活字の Ъ・І・Ѡ は新活字の Е・И・Ф を用いた。

Абрамович, Н. Я.—Литературно-критические очерки. Кн. 1, Творчество и жизнь. 302 стр. СПб., Изд. § Пушкинская Скоропечатня §, 1909

アブラモヴィッチ (エヌ・ヤ) 著 (FA-9012)

『文学評論概説。第一冊。創作と生活』三〇二頁。ペテルブルグ、プーシキン印刷社版、一九〇九年刊。一冊

著者は、ロシアの批評家であるが詳細は不明。本書は、ハムスン (Knut Hamsun)、『唯美主義とエロチズム』、ダヌンツィオ (Gabriele D'Annunzio)、『ニーチェ』 (Friedrich Wilhelm Nietzsche)、『ラスコーン』 (Николай Семёнович Лесков)、『ラスコーリニコフ』 (Кошмар Раскольников)、『生の恐怖』、個人主義と革命運動などに関する広汎な諸論を一本にまとめたものである。二葉亭の標記は、『批評文学』。本書は、明治四十二年一月二十四日 (新曆二月六日)、『ペテルブルグ』において「ループル二十五カニーク」で購求したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三巻所収「明治四十二年」参照。

Александров, А. (сост.)—Полный русско-английский словарь. 2. изд. исправ. и дополн. 717:24 стр. СПб., Военная тип. (в здании Главного Штаба),

1897 (P-1657)

アレクサンドロフ (ア) 編

『露英大辞典。増補改訂二版』七二七二四頁。ペテルブルグ、参謀本部内軍部印刷局版、一八九七年刊。一冊

一般に『アレクサンドロフの露英辞典』 (Complete Russian-English Dictionary by A. Alexandrow) といわれている古典的な辞書である。編者は、言語学者であるが詳細は不明である。二葉亭の標記は、『アレクサンダー露英対訳字典』。現在ではほとんど用いられていないので、市場価値はきわめて低い。

Андреев, Леонид Николаевич (1871-1919)—Собрание сочинений. Т. 5. 280 стр. Фронт. СПб., Изд. § Шиповник §, 1909 (FH-10246)

1. Иуда Искариот.
2. Египзар.
3. Жизнь человека.
4. Великан.
5. Тьма.

アンドレーエフ (レオニード・ニコラエヴィッチ) 著

『作品集』第五巻。二八〇頁 扉絵付 ペテルブルグ。「シボーフニク」版、一九〇九年刊。一冊

一 イスカリオテのユダ。

二 エレアザール。

三人の一生。

四 巨人。

五 深渊。

著者は、オリョール県に生まれロシア庶民のささやかな生活と喜怒哀楽を感動的に描くことから出発した。その手法は、チェーホフやゴロリキーに近いといわれるが、やがて世紀末の知識人として人生の不完全さを鋭敏に知覚し、極端な個人主義へ向かった。次第に厭世主義に陥り、一九〇五年頃までは主として個人の悲劇、ついで集団の悲劇を描いた。一九一七年の十月革命直前まで、『ロシアの意志』 (ルスカヤ・ヴォリヤ) 誌の有力な寄稿者だったが、革命後フィンランドへ亡命して没した。わが国では、一九〇四年の作品『血笑記』 (赤い笑い) がよく知られている。二葉亭の標記は、『レオニール・アブレエフ文集』となっているが、これは本書の表紙タイトルが飾文字で書かれているために、さすがの二葉亭もうっかりして読み違えたのであろう。

二葉亭四迷旧蔵露文獻目録並解題

Андреев, Леонид Николаевич (1871-1919)—Рассказы.

Т. 1, 2. СПб., Изд. § Знание §, 1906 2т.

(FH-10235)

Т. 1. Большой шлем и другие рассказы.

(1)(2)

Т. 2. Мысль и другие рассказы.

アンドレーエフ (レオニード・ニコラエヴィッチ) 著

『短篇集』第一、二巻。ペテルブルグ、「ズナーニエ」版、一九〇六年刊。二冊

第一巻 「大きなヘルメット」その他の短篇。

第二巻 「思想」その他の短篇。

二葉亭の標記は、『アンドレーエフ 短篇集』。

Андреев, Леонид Николаевич (1871-1919)—Мелкие рассказы. (Т. 3.) 294 с. СПб., Изд. § Знание §, 1906 (FH-10235)

(3)

Андドレーエフ (レオニード・ニコラエヴィッチ) 著

『掌篇集』 (第三巻—『短篇集』第一、二巻につづく分冊)。

二九四頁 ペテルブルグ、「ズナーニエ」版、一九〇

六年刊。一冊

「バルガモートとガラシカ」その他の短篇。

二葉亭の標記は、『Андドレーエフ 物語』 (第一巻)、『Андドレーエフ 短篇集』 (第二巻)。

Андреев, Леонид Николаевич (1871-1919) — Рассказы и прьеса. (Т. 4.) 306 с. СПб., Изд. § Знание §, 1907

1. Бор.
2. Губернатор.
3. Так было.
4. К звездам.
5. Савва.

(FH-10235)
(4)

Анддреев (レオニード・ニコラエヴィッチ) 著

『短篇と戯曲集』(第四卷)『短篇集』第一、二巻と『掌篇集』第三巻にわく分冊)。三〇六頁 ペテルブルグ、
「ズナーニエ」版、一九〇七年刊。一冊

- 一 盗賊。
- 二 知事。
- 三 かくありき。
- 四 星たちへ。四幕のドラマ。
- 五 サークワ。四幕のドラマ。

二葉亭の標記は、『アンドレーフ作 短篇集』。本書は、
明治四十年七月二十六日に「ノーヴォエ・ヴェーシヤ」出版社に発注したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三巻所収「明治四十年」参照。

Арнольд, Эдвин (1832-1904) — Свет Азии, поэма; пер.

A. Анненкой: под ред. В. Лесевича. 238 стр.,
СПб., Тип. В. А. Тиханова, 1890 (FE-12159)

アーノルド (エドウィン) 著 ア・アンネンスキー訳
(ヴェ・レゼヴィッチ監修)

『アジアの光。叙事詩』二二八頁 ペテルブルグ、
イハーノフ版、一八九〇年刊。一冊

著者は、イギリスの詩人、ジャーナリスト。ロンドンおよびオクスフォード両大学に学び、インドのプーナの梵語学校長を勤めた。一八六二年に帰国して、『デイリー・テラグラフ』の主筆となる。のちに来日して、一八九七年日本婦人と結婚、詩をもって東洋の思想や生活を紹介しようとして試み、積尊の生涯を歌い、仏教の教義を説いた。本書は、代表的著作の長篇無韻詩 The light of Asia. 1879. の露訳である。二葉亭の標記は、『エドゥウイン・アルノルドノ亜細亜ノ光』。

Басов, Сергей Александрович (псевд. — С. Верхо-
ничев, 1869-?) — Конек-Скакучок, русская сказка.

72 стр. СПб., Изд. § Ручеек §, 1906 (FH-10243)

バーソフ (セルゲイ・アレクサンドロヴィッチ。ペン
ネーム→エス・ヴェルホヤンツェフ) 著

『小さな駿馬。ロシアのお伽噺』七二頁 ペテルブルグ、「ルチェーエタ」版、一九〇六年刊。一冊

著者は未詳。二葉亭の標記は、『詩作』。お伽噺を詩の形式で表現した小冊子。

FH
10250
(1) (2)
(9)-(12)

Беглинский, Виссарион Григорьевич (1811-1848) — Со-
чинения; с портретом автора и его факсимиле.
Часть 3, 7, 9-12. Москва, Тип. § Русская §, 1882-
1884 ггт.

- Часть 3. 1838: Московский Наблюдатель; Ли-
тературныя прибавления к § Русс-
кому Инвалиду §; Отечественныя
Записки; 1840: Отечественныя За-
писки. (5. изд.)
7. 1843: Отечественныя Записки; (4. изд.)
 9. 1884: Отечественныя Записки; 1845: Отечественныя Записки. (4. изд.)
 10. 1845: Отечественныя Записки; 1846: Отечественныя Записки. (4. изд.)
 11. 1847: Современник; 1848: Современник. (3. изд.)
 12. Литературная Газета 1840 г.; Статьи

二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

не подошедшие под разделение
первых частей; Статьи не бывшие
в печати; Приложения. (4. изд.)

ベリンスキー (ヴィッサリオン・グリゴリーエヴィチ) 著
『作品集。著者の肖像および筆跡付』第三、七、九、十
二巻。モスクワ、「ルスカヤ」版、一八八二〜一八八
四年刊。六冊

- 第三巻 一八三八年—『モスクワの監視人』誌。
 - 『ロシアの反古』誌への文学的付言。『祖国記事』誌。一八四〇年—『祖国記事』誌。(第五版)
 - 第七巻 一八四三年—『祖国記事』誌。(第四版)
 - 第九巻 一八四四年—『祖国記事』誌。一八四五年—『祖国記事』誌。(第四版)
 - 第十巻 一八四五年—『祖国記事』誌。一八四六年—『祖国記事』誌。(第四版)
 - 第十一年 一八四七年—『同時代人』誌。一八四八年—『同時代人』誌。(第三版)
 - 第十二巻 一八四〇年度『文学新聞』。最初の区分に属さない諸論文。未発表の諸論文。付録。(第四版)
- 著者は、ロシアの文芸評論家。スヴェヤホルグの辺境に

無名軍医の子として生まれ、モスクワ大学に進んだ。在学中の一八三二年、農奴制排撃の戯曲「ドミートリイ・カリニン」を書いて放校され、ゲルツェン (A. И. Герцен)、『オガリョーフ (H. П. Огарев)』、スタンケーヴィッチ (H. B. Станкевич) などのグループに参加した。「文学的空想」(一八三四年) によって批評活動にはいり、主要な文芸雑誌に評論を発表しつづけた。一八三五年、ゴゴリ (H. B. Гоголь) の作品を高く評価して彼の文壇的地位を定め、一八三九年以降は、ペテルブルグの有力誌『祖国記事』(オチェーチェストヴェンヌイェ・ザビスキ)』に拠って、レルモントーフ (M. Ю. Лермонтов) 論、『プーシキン (A. С. Пушкин) 論をはじめ、幾多の文芸評論を精力的に発表した。一八四六年からは、『ネクラソフ (H. A. Некрасов)』らの雑誌『同時代人 (Современник)』に加わり、「一八四六年のロシア文学観」を書いた。その後肺を悪くしてドイツに転地し、一八四七年には「ゴゴリへの手紙」を書き、ついで最後の論文「一八四七年のロシア文学観」を口述して間もなくペテルブルグで没した。彼は、純粋芸術を否定して、芸術は社会に奉仕すべきであると主張し、最初の国民詩人としてのプーシキンの意義を明らかにした。また、現実の生活詩人としてのレルモントーフを、ゴゴリの現代的意義を、さらにネクラソフ、ゲルツェン、ツルゲーネフ (И. С. Тургенев)、『ゴンチャロフ

フ (И. А. Гончаров)』、『ドストエフスキー (Ф. М. Достоевский)』などの創造の特質を明らかにした。ハリンスキーの批評は、『リアリズムに立脚した熱情にみちた表現を特色とする。彼の傾向は、一八五〇年代以降、チェルヌイシェフスキー (H. Г. Чернышевский)』と『プロリューホフ (H. А. Добролюбов)』によって継承され、ロシアのマルクス主義社会理論および文学理論の発展上不可欠のエポックを形成した。ハリンスキーがめざした自己改善と理想的芸術のために捧げた壮大にして高尚なるものへの憧憬、真理への無限の愛は、ロシアの悲惨な現実にあえぐ人びとに光をあたえた。二葉亭の標記は、『ハリンスキー文集』。

Берлин, П. А. — Карл Маркс и его время. 235 стр. Москва, Изд. § Польза §, б. г. (Научно-популярная библиотека, сер. 1, No. 5-6)

ベルリン (ベ・ア) 著

『カール・マルクスとその時代』二三五頁 モスクワ、「ボリーザ」版、刊年不明 (教養文庫、シリーズの一、第五一六号)。一冊

著者については未詳であるが、一九〇五〜一九〇七年に、ドイツの一八四八年革命論・ドイツ第一議会論・十九

世紀における経済学説の発達・西欧政党的理論、組織および活動などに関する諸著を出版している。二葉亭の標記は、『カル・マルクス』。本書は、明治四十二年一月十六日 (新暦一月二十九日)、ペテルブルグにおいて二ループル三十五カペークで購求したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三巻所収「明治四十二年」参照。

Вайнингер, Отто (1880-1903) — Полю и характер; теоретическое исследование. 204 стр. СПб., Тип. § Печатный Труд §, 1909 (ЛС-3365)

ヴァイニンガー (オットー) 著

『性と性格に関する理論的研究』二〇四頁 ペテルブルグ、「ベチャートヌイ・トゥルード」版、一九〇九年刊。一冊

著者は、オーストリアの思想家。ショーペンハウアー (A. Schopenhauer)、『カント (I. Kant)』の影響を受けて性の形而上学を説いた。本書は、『Geschlecht und Charakter. 1903.』の露訳。訳者は不明。二葉亭の標記は、『男女ノ両性及性質』。明治四十二年二月三日 (新暦二月十六日)、ペテルブルグにおいて八十カペークで購求したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三巻所収「明治四十二年」参照。

二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

AD-4441

Вандаль, Альберт (1853-1910) — Возвышение Бонапарта. 1. Происхождение брюмерского конституанта; Конституция Ш-го года; пер. с XI-го французского издания З. Н. Журавской. 616 стр. СПб., Тип. § Герольд §, 1905 (Книгоиздательство М. В. Пирожкова. Исторический отдел, No. 16).

ヴァンダール (アルベール) 著 ゼ・エヌ・ジュラフスカヤ訳

『ボナパルトの即位。その一。ブリュメール領事館の発生。第三年の憲法。仏文原典十二版よりの訳書』六一六頁 ペテルブルグ、「ゲロルド」版、一九〇五年刊 (ピロシコフ出版社、歴史部門第十六号) 一冊

著者は、『フランスの歴史家。本書は、『L'Avènement de Bonaparte. 2v. 1902.』の第一巻の露訳。タイトル頁に、「尊敬する長谷川氏へ記念として訳者より呈す。一九〇九年三月二十日」(Уважаемому г. Хасегава на добрую память от переводчицы. 20 марта 1909.) とある。二葉亭の標記は、『ナポレオン・ボナパルトノ立身』。

Вестник Кооперации. Кн. 1. 84: 71 стр. СПб., Изд. СПб. Отделения Комитета о сельских ссудо-сберега- (ЕФ-5982)

『協同組合通報』第一冊。八四十七頁。ペテルブルグ、農村貸付・貯蓄および産業組合委員会支部版、一九〇九年刊。一冊

協同組合問題の論文集。二葉亭の標記は、『コウビラーチャノ通信』。

Гаршин, Всеволод Михайлович (1855-1888) — Первая книжка рассказов. 8. изд. 205 стр. СПб., Тип.

Стасюлевича. 1897. Четыре дня; Пронешествие; Трус; Встреча; Художники; Ночь; Atalea Princess; То, чего не было. (FH-10237)

ガルシン(フセヴォロド・ミハイロヴィッチ)著

『第一短篇集。第八版』二〇五頁。ペテルブルグ、スタシユレーヴィッチ版、一八九七年刊。一冊
四日間。事件。臆病者。邂逅。画家。夜。アタレア・プリンケプス。夢語り。

著者は、貴族出身の作家。軍人の家庭に育ち、義勇兵として露土戦争に参加し、負傷して帰郷後文学活動に従事した。「四日間」(一八七六年)で文壇にデビュー、七十年代のロシアのインテリゲンツィアの戦争反対、人間相互の殺

собрание сочинений; с портретом автора, гра-
вированным академиком И. П. Пожаростинным и
факсимиле. Т. 4, 5. СПб., Изд. Глазунова, 1884
2тт.

Т.4. Обрыв; романы в пяти частях, Часть 1, 2.
5. Тоже, Часть 3-5.

ゴンチャロフ(イワン・アレクサンドロヴィッチ)著
『全集。学士院会員イ・ペ・ホジャロスチーヌイ製版
の著者肖像ならびに筆跡付』第四、五巻。ペテルブルグ、グラスノフ版、一八八四年刊。二冊

第四巻 断崖。五部よりなる長篇。第一、二部。
第五巻 同右。第三〜五部。

著者は、シンビルスク県出身の作家。モスクワ大学に学び、県庁および大蔵省に勤務、一八四一年、長篇『平凡な物語』で文壇にデビューした。一八五二〜五四年、海軍中将ブウチャーチン(Е. В. Пугачин)の秘書として旗艦バルラダ号に坐乗、世界周航を体験した。旅行記『フレガート・バルラダ』(一八五八年)は、そのときの記録としてユニークな所産である。ゴンチャロフは、一八五三年に長崎へ寄航、日露交渉に参加して、幕末日本の実態をリアルスチックに描破した。一八五六年、文部省附検閲官となり、長篇『オプロモフ』(一八五九年)で、農奴制廃止

二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

の発作を起し、病院生活中に窓から飛び降りて自殺。代表作「紅い花」(一八八三年)は、社会悪の存在に対する責任の問題を象徴した作品として有名である。ガルシンに関する評論は多いが、なかでも、文学史家オフシヤニコックリコーフスキー(Д. Н. Овсянко-Курликовский)作家コレンコ(В. Г. Короленко)の批評は定評がある。二葉亭の標記は『ガルシン著 短篇集』。

Глебов, С.—Грамматика русского языка. 2. изд. → 和訳集
579-1745
дополн.; пер. Х. Ивалдавы. 557 стр. Токио, Токио

Инацу, 1901 (На японском языке)

グレーボフ(エス)編・岩沢丙吉訳

『露西亜文法。露文例題及読本同和訳並字引付。増訂再版』五七七頁。東京、東京印刷株式会社印行、一九〇一年刊。一冊

編者は、明治末期に日本に滞在した言語学者。本書は日本語に訳された旧正字法の露文法書として古典的な業績とされている。訳者は、ペテルブルグ大学に留学した露語界の先学。二葉亭の標記は、『グレーボフ 露西亜文法』。

Гончаров, Иван Александрович (1812-1891) — Полное

(FH-10239)
(1)(2)

の必然性を提起した。政府機関紙『北方新聞』の主筆を勤めた。本書は、定評のあるグラスノフ版全集の一部で、一八六九年の長篇「断崖」である。ホジャロスチーヌイ製版の著者肖像と筆跡は、本書には付されていない。二葉亭の標記は、『ゴンチャロフ著 オブライフ』。なお岩波版『二葉亭四迷全集』第十五巻所収「補遺」のうち「子の愛読書」を参照。

Горбунов, Иван Федорович (1831-1895) — Полное со-
брание сочинений; под ред. и с предисловием
А. Ф. Конн. 3. изд. Т. 2, Кн. 1, 2. СПб., Изд. А.
Ф. Маркса, 1904 (Приложение к журналу S Neva S
на 1904 г.) 2тт.

Т. 2, Кн. 1. Очерки и рассказы.

Кн. 2. Драмагичеркие этюды; Подража-
ние старинной письменности; Оче-
рки из истории театра; Орывки
из воспоминаний.

ゴルブノーフ(イワン・フォードロヴィッチ)著
『全集。ア・エフ・コニ監修および序文。第三版』第
二巻、第一、二分冊。ペテルブルグ、マルクス版、一
九〇四年刊(一九〇四年度『ネヴァ』誌付録)。二冊

(FH-10247)
(2-1)
(2-2)

第二卷 第一分冊 印象記と短篇。
第二卷 第二分冊 戯曲のエチュード。古代文学の模倣。演劇史ノート。回想断片。

著者は、農民出身の作家にして劇作家、また俳優として、ホテルブルグのアレクサンドロフ劇場の舞台を踏んだ経歴もある。十九世紀後半のロシアの都会、小市民および農民の生態を描いた。様式は六十年代の代表的な自然主義で、やわらかいユーモア、コミックな短篇の能手として知られた。二葉亭によって『ユルブウノフ氏文集』と標記されている本書は、初版本である。ユルブウノフの全集は、二巻本で、早大図書館には、二葉亭旧蔵以外の完結本(全二冊・第三版・刊年不明)も収蔵されている。なお、詳細は、Цейтлин, А.: Литературные цитаты Ленина. М., 1934; Кузнецов, Е. М.: Иван Федорович Горбунов. Л., 1947 を参照。

Громека, М. С.—О. Л. Н. Толстом; критический очерк по поводу романа § Анна Каренина §. 5. изд. дополн. 221 стр. Москва, Тип. И. Д. Сытина, 1894 (FH-10242)

グロメーカ(エム・エス)著
『エリ・エヌ・トルストイについて。小説「アンナ・

ではなく、ロシアの国家体制の再形成に関係のある法令だけを収めている。すなわち、勅令・布告・元老院訓令・勅書・各省委員会指令などを一八九種収録し、付録として国家基本法集成(一九〇六年公布)・帝室制度に関する法律(一九〇六年制定)・国家選挙法令(一九〇六年および一九〇七年公布)・国会制度に関する法律(一九〇六年公布)・元老院制度に関する法律(一九〇六年公布)を掲載し、巻末に項目別辞書体索引を附している。二葉亭の標記は、『立法権』とあるが、これは明らかに誤訳である。

Земли; сборник второй. 359 стр. Москва, Московское книгоизд., 1909 (FH-10244)

1. Байрон: Небо и земля; Мистериа; пер. Ив. А. Бунина.
2. Бор. Зайцев: Спокойствие.
3. Н. Олигер: Велье лепестки.
4. Н. Крашенинников: Меблированная комната.
5. А. Федоров: Король мустангов.
6. М. Арцыбашев: Рабочий Шевяков.

『大地(ゼムリヤ)』誌。第二集。三五九頁。モスクワ、モスクワ出版部版、一九〇九年刊。一冊
二葉亭四迷旧蔵露文獻目録並解題

カレーニナ」をめぐる批評的概述。増補五版』二二頁。モスクワ、スイティン版、一八九四年刊。一冊

著者については未詳。二葉亭の標記は、『トルストイ氏ノ文章評』とある。タイトル・ページには、「長谷川氏へ謹呈。К・田中」(Г-ну. Хасегава почитательно поднесит. К. Танака.)と墨書されている。本書には、どこどころ青鉛筆のチェックが附されているので、二葉亭が繕いたものと推定される。

Законодательные акты переходного времени, 1904—1908 гг. 3. изд. пересмотр. и дополн. по 1 сентября 1908 г.; под ред. Н. И. Лазаревского. 1018 стр. СПб., Изд. Юридического книжного склада § Право §, 1909 (BC-61770)

『過渡期の立法行為、一九〇四—一九〇八年。一九〇八年九月一日現在増補校訂三版。エヌ・イ・ラザレフスキー監修』一〇一八頁。ペテルブルグ、法律出版社「ブラーヴォ」版、一九〇九年刊。一冊

本書は、ロシアが法制上の無秩序体制から立憲体制へ移行する過渡期の研究に資する手引である。従って、一九〇四年以降に公布された諸法令がすべて収録されているわけ

- 一 バイロン作「天と地」「神祕」(イワン・ア・ブーニン訳)
- 二 ボリス・ザイツェフ作「平穩」
- 三 エヌ・オリゲル作「白い花びら」
- 四 エヌ・クラシェニンニコフ作「家具つきの貸間」
- 五 А・フォードロフ作「ムスタングの王」
- 六 Эм・Алтъйбаишьеф作「労働者シェブイレフ」

文芸雑誌『大地』の第二集。二葉亭の標記は、『諸文豪作 地球』。

Каталог книжного магазина § Нового Времени § А. С. Суворина; 1878-1901; с алфавитным указателем. 1012 стр. СПб., Тип. А. С. Суворина, 1902 (ZB-978)

『書店「新時代(ノーヴェ・ヴェレ・ミヤ)」図書目録。ア・エス・スヴォーリン版、一八七八—一九〇一年。アルファベット順索引付』一〇二二頁。ペテルブルグ、スヴォーリン版、一九〇二年刊。一冊

本書は、一八七八—一九〇一年に、いわゆる「スヴォーリン版」として出版された露文獻の分類別辞書体著者名

目録である。分類は、神学・哲学・心理・論理・博物・物理・化学・数学・天文・気象・歴史・伝記・考古学・地理・人種誌学・旅行記・人類学・農学・工学・建築・技術・手工業・法学・社会学・医学・衛生・解剖・生理・外科医学・軍事・海事・教育・児童青年図書・一般教養図書・芸術・便覧参考図書——以上の諸項目に分れている。二葉亭の標記は、『ノーウオエ・ウレーミヤ出版ノ書籍目録』。二葉亭は、この目録を受用し、ロシアとの往復書簡によって多くの書籍を購入した。

Кирилов, Н. В. — Современное значение Тибетской медицины, как части Далайской доктрины. 47 стр. СПб., Тип. Министерства Внутренних Дел, 1892 (PA-5057)

キリーロフ (エヌ・ヴェ) 著
『ライ教義の一部としてのチベット医学の現代的意義』四七頁。ヘルブルグ、内務省印刷局版、一八九二年刊。一冊

著者については未詳であるが、本書の内容は、一八九一年十一月二十九日、イルクーツク市で開催された「ロシア帝国地理学協会東部シベリア支部」の総会における公開発表を印刷したものである。二葉亭の標記は、『西藏医学』。

参照。

Короленко, Владимир Галактионович (1853-1921) — Очерки и рассказы. Кн. 1-3. СПб., Тип. Н. Н. Клубовкова, 1905, 1906 (Изд. редакции журнала «Русское Богатство»). 3т. (FH-10236⁰¹⁻⁰¹)
Книга 1. В дурном обществе и другие рассказы. (1. изд.)
2. Река играет и другие рассказы. (7. изд.)
3. Олоньки и другие рассказы. (3. изд.)

コロレンコ (ウラジミール・ガラクチオーノヴィッチ) 著
『印象記と短篇』第一〜三巻。ヘルブルグ、クロブコーフ版、一九〇五、一九〇六年刊(『ロシアの富(ルスコエ・ボガートストヴォ)』誌附録) 三冊
第一巻 「不良仲間の中で」その他の短篇(第十版)
第二巻 「河のせせらぎ」その他の短篇(第七版)
第三巻 「灯」その他の短篇(第三版)

著者は、ウクライナ出身の作家。中学卒業後、モスクワの農業学校に進み、在学中ネチャエフ事件で官憲に抵抗して放校された。一八八四年、ベルミ、ヤクーツクへ流刑
二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

Козлов, А. А. — Религия графа Л. Н. Толстого. 117 стр. СПб., Тип. П. И. Шмитта, 1888 (FH-10241)
コズロフ (ア・ア) 著
『エリ・エヌ・トルストイ伯の宗教』一二七頁。ヘルブルグ、シュミット版、一八八八年刊。一冊

著者は、聖ウラジミール大学教授であるが、詳細は不明。二葉亭の標記は、『トルストイの宗教』。

Конституция Российской Империи; с примечанием и вступительною статьею Л. Столипецкого. 240 стр. СПб., Тип.-литогр. Экономическая, б. г.
『ロシア帝国憲法』エリ・スロニムスキー注解および序論』二四〇頁。ヘルブルグ、経済印刷社版、刊年不明。一冊

本書は、一九〇五〜一九〇七年に制定されたロシア憲法の全文を収録したものである。内容は、憲法序説・ロシア国家体制の基本的概観(以上スロニムスキーの序論)・民衆代表に関する勅令布告・基本的国家法・国家立法施設・国家行政・市民の個人および社会に関する権利の各項に分れている。二葉亭の標記は、『露国憲法』。なお、岩波版『二葉亭四迷全集』第十二巻所収「露国政情詳細(手帳九)」

され、この頃から文学活動に従事した。処女作「探求者の生活エピソード」(一八七九年)について、「マイカールの夢」(一八八五年)、代表作「盲音楽師」、「不良仲間の中で」、「河のせせらぎ」、「森はわめへ」(一八八六年)などを発表し、評論も多くものした。作品の基調は、社会正義への熱情とユートピアニズムである。雑誌『ロシアの富』(Русское Богатство)を編集、回想録『わが同時代人の歴史』(История моего современника. 1921)を残した。二葉亭の標記は、『コロレンコ作 短篇』、『コロレンコ作 短篇集』、『コロレンコ作 物語数種』。

Кулябко-Корецкий, Н. И. — Франция в XIX веке; политическая волнения и революционная буря. 231 стр. Москва, Тип. И. Д. Сытина, 1907 (AD-4450)

クリャブコニコレーツキー (エヌ・イ) 著
『十九世紀のフランス。政治的動揺と革命の嵐』一二三頁。モスクワ、サイティン版、一九〇七年刊。一冊
著者については未詳。二葉亭の標記は、『十九世紀ノ仏蘭西政治運動及革命騒擾』。本書は、明治四十二年一月二十八日(新暦二月十日)、ヘルブルグにおいて七十五カペークで購求したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三巻所収「明治四十二年」参照。

Лопухин, А. А. — Из итогов служебного опыта; на-
стоящее и будущее русской полиции. 69 стр.
Москва, Изд. В. М. Сабина, 1907 (DC-3397)

ロブリーヒン (ア・ア) 著

『勤務体験の結果から見たロシア警察の現在と未来』
六九頁 モスクワ、サブリン版、一九〇七年刊。一冊

著者は未詳。二葉亭の標記は、『勤務上ノ経験』。本書
は、明治四十二年一月二十一日 (新曆二月三日)、『ペテル
ブルグにおいて五十カベークで購求したもの。岩波版』二
葉亭四迷全集』第十三卷所収「明治四十二年」参照。

Мейман — Введение в современную эстетику; пер.
с немецкаго И. и В. Слоним; под ред. и предис-
ловием Ю. И. Айхенвальда. 185 стр. Москва,
Тип. И. Н. Кушнерова, 1909 (CH-1666)

メイマン著 イ・スローニム、ヴェ・スローニム訳 (エ
イ・アイヘンヴァリド監修および序文)

『現代美学序説。ドイツ原典からの訳書』一〇五頁
モスクワ、クシネレーフ版、一九〇九年刊。一冊

著者は、ドイツの哲学教授であるが、詳細は不明。監修

者アイヘンヴァリドの序文によれば、メイマン教授の美学
に関する論評は、Самсонов, Н.; Общая эстетика.
(в журнале "Критическое обозрение" за 1908
г., вып. III-IV) に詳しい。二葉亭の標記は、『現今ノ美
辞学初歩』。本書は、明治四十二年一月三十日 (新曆二月
十二日)、『ペテルブルグにおいて六十カベークで購求した
もの。岩波版』二葉亭四迷全集』第十三卷所収「明治四十
二年」参照。

Мережковский, Дмитрий Сергеевич (1865-1941) — В
тихом омуте. 325 стр. СПб., Тип. Общ. Тип.
Дела, 1908 (FH-10240)

メレシコフスキー (ドミートリイ・セルゲイ・エヴィツ
チ) 著

『静かな淵にて』二五二頁 ペテルブルグ、印刷事業
社版、一九〇八年刊。一冊

著者は、ロシア貴族出身の詩人、作家、評論家。ロシア
・シンボリズムの創始者であり、その積極的な担い手であ
った。彼は、新しい芸術の三要素として、神秘的な内容・象
徴性・芸術的印象性の拡大を提唱し、雑誌『あたらしい道』
(一九〇三〜一九〇四年)をおこして、アレクサンドル・プ
ローク (A. A. Blok)、『マンダレイ・ニールイ (A. Белый)

などの象徴派のグループを結成した。「神々の死」、「神々
の復活」、「ビョートルとアレクセイ」より成る三部作『キ
リストと反キリスト』(Христос и антихрист. 1896-
1904) が代表作である。一九一七年の革命後はバリに亡命
し、依然として神秘的モチーフに根ざした作品を書いてい
る。批評家としては、文学における革命的進歩性に激しく
挑み、評論「トルストイとドストエフスキー」(一九〇一
〜二年)、『ゴッホリと悪魔』(一九〇六年)その他で、彼
一流の宗教的・神秘的な論陣を張っている。本書は、『マン
ダレイノフ (Л. Н. Андреев)』トマスナイ (Л. Н. То-
мстой) などの作品を論じて、あわせてキリスト教的文学論
を展開している。二葉亭の標記は、『メレシコフスキー

氏作 静ナル穴中』。本書は、明治四十二年一月二十一日
(新曆二月三日)、『ペテルブルグにおいて』一ループル二十
五カベークで購求したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第
十三卷所収「明治四十二年」参照。

Мопсан, Гюи де (1850-1893) — Полное собрание со-
чинений и письма; с иллюстрациями и критико-
биографическим очерком Э. А. Венгеровой. Т. 5.
400 стр. фронт. СПб., Тип. § Просвещение §, 6. г.
(Всемирная библиотека) (FD-11210)

モーパッサン (ギイ・ド) 著

二葉亭四迷旧蔵露文獻目録並解題

『作品、書簡全集。図版および、ゼ・ア・ヴェンゲロ
ーフによる略評伝付』第五卷。四〇〇頁 扉絵付
ペテルブルグ、『プロスヴェンチエーニエ』版、刊年
不明 (全世界文庫)。一冊

「女の一生」と「海にて」ほか十一篇を収録した露訳全
集本の一冊。二葉亭の標記は、『モウパッサン文集』。

Морев, Ант. — Философская самокритика марксист-
ма. 53 стр. СПб., Тип. Я. Балликаго, 1909 (EC-5289)

モレーフ (アントン) 著

『マルクシズムの哲学的自己批判』五三頁 ペテルブ
ルグ、バリヤンスキー版、一九〇九年刊。一冊

著者については未詳。二葉亭の標記は、『哲学的自評マ
ルクシイイズム』。本書は、明治四十二年一月二十四日 (新
曆二月六日)、『ペテルブルグにおいて』三十五カベークで
購求したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三卷所収
「明治四十二年」参照。

Москвич, Григорий — Иллюстрированный практиче-
ский путеводитель по С.-Петербургу; с приго-
жением. 4. изд. М. А. Москвича. 230; XLVI стр.
(HC-1807)

Илл. Одесса, Тип. § Техник §, 1908

モスクヴィッチ (グリゴリー) 著

『ペテルブルグ市図解実用案内。附録付。エム・ア・モスクヴィッチ第四版』二二〇—四六頁 図版入 オデッサ、「チェフニク」版、一九〇八年刊。一冊

マリンスキー劇場・アレクサンドリンスキー劇場・ネフスキー官庁街・ペトロパヴロフスク刑務所・ビョートル大帝の私邸・ミハイロフスキー劇場その他数十カ所の名所旧跡の解説書。地名索引附。二葉亭の標記は、『ペテルブルグ案内』。

Негидов, Ф. Ф. — Очерки по истории новейшей рус-

ской литературы. Часть 1. 2. изд. исправ. и дополн. 308 стр. Москва, Тип. И. Д. Сытина, 1907

ネリドフ (エフ・エフ) 著 (FH-10251)

『最新ロシア文学史概説。第一部。増補改訂第二版』三〇八頁 モスクワ、スイティン版、一九〇七年刊。一冊

著者は、ロシアの文芸評論家であるが詳細は不明。本書の内容は、『エカテリナ二世 (Екатерина II)』アレクサン

ドル一世 (Александр I) ニコライ二世 (Николай II)

の各治世の社会性とロシア文学・十九世紀三十四十年代におけるドイツ観念論の影響・西欧文学と空想社会主義の影響・チャーダエフ (П. Я. Чадаев) 論・ロシアのインテリゲンツィヤとゲルマン崇拜の傾向・スラヴ派と西欧派・四十年代のモスクワのサークル活動・ペリンズキー (В. Г. Белинский) 論・トリコロヴィッチ (Д. В. Гриорович) 論などである。二葉亭の標記は、『ネリドフ作史論』。本書は、明治四十年七月二十六日に「ノーヴォエ・ヴレーミャ」出版社に発注したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三巻所収「明治四十年」参照。

Немирович-Данченко, Василий Иванович (1848-1936)

— Бодрые-смелые-сильные; из летописей осво-божденного движения; повести, очерки и рассказы. 259 стр. Москва, Тип. И. Д. Сытина, 1907 (FH-10232)

ネミロヴィッチリダンチェンコ (ワシリーイ・イワーンヴィッチ) 著

『若々しく勇敢な強い人びと。解放運動の年代記からの中篇、印象記、短篇』二五九頁 モスクワ、スイティン版、一九〇七年刊。一冊

著者は、ロシアの作家でジャーナリスト。劇作家で有名

なウラジミール・ネミロヴィッチリダンチェンコ (В. И.

Немирович-Данченко) の兄である。明治四十年に来日し、長崎・神戸・大阪を経て東京にはいった。当時二葉亭は朝日新聞の記者としてダンチェンコに会見し、「ダンチエヌコ翁と語る」(明治文学懇話会編『明治文学研究』第一巻第十号・昭和九年十月・耕進社刊収録の神崎清氏解題「二葉亭逸文集」参照)と題する一文をものしている。ダン

チェンコは、コーカサスのチフリスに生まれ、軍人の家庭で育ちモスクワ幼年学校を卒業、政治的追放を受けて旅行生活にはいった。彼は露土(クリミア)戦争にも日露戦争にも従軍した一流のジャーナリストであった。二葉亭は、ダンチェンコの尽力によってロシア特派員として翌四十二年(一九〇八年)渡露した。本書への二葉亭の標記は、『大胆、勇敢ニシテ強力ナル者 ダンチェンコ作』。

Немирович-Данченко, Василий Иванович (1848-1936)

— Братские могилы, первый роман. 290 стр. Москва, Изд. И. Д. Сытина, 1907 (FH-10233)

ネミロヴィッチリダンチェンコ (ワシリーイ・イワーンヴィッチ) 著

『兄弟の墓。第一の長篇』二九〇頁 モスクワ、スイティン版、一九〇七年刊。一冊

二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

二葉亭の標記は、『ネミロウイチ・ダンチェンコ作 兄弟ノ墳墓』。

Немирович-Данченко, Василий Иванович (1848-1936)

— Волчья сыть, роман в трех частях. 2. изд. 512 стр. СПб., Изд. П. П. Сойкина, 1904. (FH-10231)

ネミロヴィッチリダンチェンコ (ワシリーイ・イワーンヴィッチ) 著

『狼の飽腹。三部より成る長篇。第二版』五二二頁 ペテルブルグ、ソイキン版、一九〇四年刊。一冊

二葉亭の標記は、『ネミロウイチ・ダンチェンコ作 狼の満腹』。

Немирович-Данченко, Василий Иванович (1848-1936)

— Два Дневника, роман в трех частях. 427 стр. СПб., П. П. Сойкина, 1901 (FH-10234)

ネミロヴィッチリダンチェンコ (ワシリーイ・イワーンヴィッチ) 著

『二つの日記。三部より成る長篇』四二七頁 ペテルブルグ、ソイキン版、一九〇一年刊。一冊

二葉亭の標記は、『ネミロウイチ・ダンチェンコ作 二

個ノ日記』。

Озеров, И. X. — Экономическая Россия и ее финансовая политика на исходе XIX и в начале XX века; с 72-мя диаграммами. 259 стр. илл. Москва, Изд. Д. С. Горшкова, 1905 (FD-5961)

オーゼロフ (イ・ハ) 著

『十九世紀末および二十世紀初頭における経済上のロシアとその財政政策。図表七十二葉付』二五九頁 図版入。モスクワ、ゴルシコフ版、一九〇五年刊。一冊

著者は、経済学者でモスクワ大学教授。詳細は不明。二葉亭の標記は、『露国ノ経済及財政』。本書は、明治四十年七月二十六日に「ノーヴォエ・ヴレーシヤ」出版社に発注したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三巻所収「明治四十年」参照。

Оливетти, А. О. — Проблемы современного социализма; пер. с итальянского Г. К.; под ред. В. М. Шулятикова; с предисловием автора к русскому изданию. 233 стр. Москва, Изд. С. Дороватовского и А. Чарушикова, 1908 (EC-5290)

オリヴェッティ (ア・オ) 著。ゲ・カ訳 (ヴェ・エム・

〇七年刊。一冊

著者は、ドイツの言語学者であるが、詳細は不明。二葉亭の標記は、『独逸語ノ実地研究案内』『独逸語の鍵』。本書は、明治四十二年一月二十三日(新曆二月五日)、『ペテルブルグで購入したもの。価格一ルーブル二十五カペーク。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三巻所収「明治四十二年」参照。

План С.-Петербурга; с показанием казенных строений, садов, парков, сети конно-железных дорог и проч.; по новейшим сведениям. Масштаб 230 саж. Изд. картографического заведения А. Ильина. СПб., 6. г. (HC-1808)

『ペテルブルグ市地図。官庁施設、庭園、公園、鉄道馬車道路網その他の最新の情報による案内』一二三〇サイシェン縮尺。ペテルブルグ、ア・イリイン地図製作所版、刊年不明。一葉

大版の地図一葉をたんでタイトル頁を付した。二葉亭の標記は、『ペテルブルグの地図』。千九百年代のものと推定されるが詳細は不明。

二葉亭四迷旧蔵露文獻目録並解題

シュリヤチコフ監修)

『現代社会主義の諸問題。ロシア語版への著者序文付』一三三頁。モスクワ、ドロヴァトフスキーおよび、チルシニコフ版、一九〇八年刊。一冊

著者は、イタリアの社会経済学者であるが、詳細は不明。内容は、社会主義の危機・社会主義とアナキズム・社会主義と教会・社会主義と経済的自由・社会主義と修正主義・サンジカリズム——以上の各項に関する諸問題である。二葉亭の標記は、『現今の社会主義問題』。

Олгендорф — Практическое руководство к правильному и безошибочному чтению, письму, переводу и берлогу разговору на немецком языке в 3 месяца; с практическим ключом; приспособленный для русских А. М. 3. изд. 384:92 стр. Москва, Изд. А. С. Панафиной, 1907 2т.

オルゲンドルフ著

『ドイツ語三カ月。規則正しく正確な読解、書簡、翻訳および流暢な会話のための実際的手引。ロシア人のために、ア・エム氏が編集した実用解説書付。第三版』三八四九二頁。モスクワ、パナフィディン版、一九〇七年刊。

Позднеев, Димитрий Матвеевич (ред.) — Описание Маньчжурии (с картой); составлено в канцелярии Министра Финансов. Т. 1. 620 стр. СПб., Тип. Ю. Н. Эрлих, 1897 (HD-1956)

ボズドネーエフ (ディミートリイ・マトヴェーエヴィチ) 監修・大蔵省官房編
『満州誌 (地図付)』第一巻。六二〇頁。ペテルブルグ、エーリッヒ版、一八九七年刊。一冊

監修者は、ロシアの東洋学者。有名な蒙古学者ア・エム・ボズドネーエフ (Алексей Матвеевич Позднеев) の弟で、同じくペテルブルグ大学に学び、ウラジヴォストークの東洋学院 (極東国立大学の前身) の学院長を勤め、のちに来日して日本学の研究に専念した。ボズドネーエフの日本関係の著述・訳書は多いが、とくに『日露関係北日本史料』三巻 (一九〇九年横浜刊) は、画期的な業績とされている。本書『満州誌』は、二巻本の第一巻で、歴史地理的概説・地名解題・河川解説・各種統計表・満州関係洋書目録・固有名詞索引を付した立派な本である。なお、タイトルに示されている「地図」は、別冊として刊行されているので、本書には一枚も収録されていない。二葉亭の標記は、『満州記事』。

Путеводитель и план города Москвы; краткое описание древних и современных достопримечательностей и окрестностей. 40 с. с картой. Москва, Изд. В. Живарева, 1908 (НС-1806)

『モスクワ市案内地図。古代および現今の名所旧跡と界限についての略述』 地図付・四〇頁 モスクワ、シヴァレフ版、一九〇八年刊。一冊

モスクワの地図を折りこんだ小形細長本、二葉亭の標記は、『モスキウ案内』。

Пушкин, Александр Сергеевич (1799-1837) — Сочинения. 3. изд. Т. 1-10. 10тт. фронт. СПб, Изд. А. С. Суворина, 1887 (РН-10249)

1. 1. Поэмы и сказки. (1) - (10)
2. Драматически произведения.
3. Стихотворения.
4. Тожё.
5. Евгений Онегин.
6. Повести.
7. Исторически сочинения и путешествия в Азию.
8. Письма.

Пыпин, Александр Николаевич (1833-1904) — Эстетическия отношения искусства к действительности. 2. изд. 152 стр. СПб., Тип. Н. Тиблена, 1865 (ПА-9011)

Пайпин (アレクサンドル・ニコラエヴィッチ) 著
『芸術の現実への美学的関連。第二版』一五二頁。ペテルブルグ、ティブレン版、一八六五年刊。一冊

著者は、文学史家、ペテルブルグ大学教授。チェルヌイシェフスキー (Н. Г. Чернышевский) / ヘルンズキー (В. Г. Белинский) / ティエヌ (Н. А. Тaine) の影響を受けて、純粹芸術の風潮に反対し、「純粹芸術のみでなく、それに隣接する民衆的・社会的思想感情の現われまでも追求し、それらを民族ならびに社会心理の材料として検討し、國際的相互作用のなかで、文学現象を比較研究する」ことをめざしたといわれている。また、方法論上の原則としては、文学的事実の歴史的・実証的説明によって、文学の社会的被制約性、社会生活の諸形態、文化の發達と文学との関連性を考察しようとした。一般に「歴史的文化学派」と称されている。一八九六年にアカデミー正会員となる。二葉亭は、本書に『パイピン氏著 美術と實際』と標記してある。なお、Сакулин, П. Н.: А. Н. Пыпин, его научное заслуги и общественные взгляды. (Вестник воспитания, 1905, No. 4) 44-50 / Глаголев, Н.: К кр-

二葉亭四迷旧蔵露文獻目錄並解題

9. Дневник; Записки; Историческия статьи и разныя заметки.
10. Лицейския стихотворения и отрывки.
プーシキン (アレクサンドル・セルゲエヴィッチ) 著
『著作集。第三版』第一〜十卷。扉絵付。ペテルブルグ、スヴォーリン版、一八八七年刊。一〇冊

- 第一卷 叙事詩とお伽噺。
 - 第二卷 劇作。
 - 第三卷 詩作品。
 - 第四卷 同右。
 - 第五卷 エヴゲーニイ・オネーギン。
 - 第六卷 中篇。
 - 第七卷 歴史的作品とアルゼルーム紀行。
 - 第八卷 書簡。
 - 第九卷 日記。隨筆。歴史論文その他の覺書。
 - 第十卷 貴族学校での詩作および断片。
- 全十巻本の文庫本形全集。本書には二葉亭の標記なし。但し、「二葉亭蔵書目録・洋書之部」(「まえがき」参照)には、『プーシキン氏文集』とある。

Р-д—Маго прожито—много пережито; Впечатления молодого офицера о войне и плене. Часть 1, 2. СПб., Тип. S Труд S, 1907 2тт. (УА-359)

Часть 1. В осаде Порт-Артура. 2. В японском плену.
エル……デ (フルネーム不明) 著
『滞在短くして辛きことのみ多かりき。戦争と捕虜についての若い士官の印象記』第一、二部。ペテルブルグ、「トゥールード」版、一九〇七年刊。二冊

第一部 旅順包囲戦にて。
第二部 日本の捕虜となつて。
著者は未詳。第一部は三五二頁、第二部は二五四頁。日露戦争に参加したロシア士官の旅順戦記と松山俘虜收容所における生活記録。二葉亭の標記は、『旅順包囲ノ若士官ノ戦争及捕虜ノ観想』。

Рейх, Эмиль (1854-1910) — Современная Германия; пер. с английского А. Вандама. 192 стр. СПб., тип. А. С. Суворина, 1908 (DD-3936)

ライヒ(エーミール)著 ア・ヴァンダム訳

『現代ドイツ。英文原典よりの訳書』一九二頁。ペテルブルグ、スヴォーリン版、一九〇八年刊。一冊

著者は、チェコスロヴァキアで生まれ、ロンドンに没したハンガリアの文化史家。西欧文化史の通史をはじめ、ハンガリア文学・プラトン・イブセンなども論じて多くの著述を書いた。後年、オクスフォード大学で文化史を講じた。本書は、Germany's swelled head. 1914. の露訳で、汎ゲルマニズム・ドイツの外交政策を論じた文献。二葉亭の標記は、『現今ノ独逸』。明治四十二年一月二十三日(新暦二月五日)、ペテルブルグにおいて一ループル二十五カペークで購入したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三巻所収「明治四十二年」参照。

Русский календарь на 1907 и 1909 гг. А. Суворина;

тридцать шестой и тридцать восьмой годы. фронт. илл. карт. СПб., Тип. А. С. Суворина, 1907, 1909 2тт. (BE-558 (1907))

『ロシアの暦。一九〇七・一九〇九年度。スヴォーリン版』第三六、三八年版。扉絵付 図版入 地図付 ペテルブルグ、スヴォーリン版、一九〇七、一九〇九 年刊。二冊

ロシアの年鑑として有名な『ルスキー・カレンダリー』。帝制末期の各種国情を知るためには貴重な資料である。皇族の写真入りで、一九〇七年度分が六五二頁、一九〇九年度分は六五六頁である。第三六、三八年版というのは通巻番号と同様である。二葉亭の標記は、『露国統計』。本書のうち一九〇七年度のものは、二葉亭が明治四十一〜四十二年、露都滞在中に購求したものであろうか。二葉亭は、明治三十五年(一九〇二年)のハルビン旅行の際には、「六月十二日(露暦五月三十日) ロベンスキにて買物 スポリン・カレンダー 1.50 (一ループル五十カペーク)云々」(岩波版『二葉亭四迷全集』第十一巻所収「遊外紀行」参照)と書いているから、本書を屢々求めて用いたものと推定される。同じく明治四十二年一月十三日(新暦二十六日)に、『ルスキー・カレンダリー』を一ループル六十カペークで購入しているが、おそらく本書であろうと考えられる。

Ракулин, Р.—Десять месяцев на японско-русской (WA-360)

войне; безпристрастные очерки и впечатления французского военного корреспондента; пер. Н. Л. 340 стр. СПб., Тип. § Труд §, 1908

レクリ(エル)著 エヌ・エリ訳

『日露戦争従軍の十カ月。フランス軍属通信員の公平ナルポルタージェと印象記』三四〇頁。ペテルブルグ、「トゥルード」版、一九〇八年刊。一冊

著者は未詳。二葉亭の標記は、『日露戦争ノ十ヶ月』。

С. С. Х.—Финансы России в связи с экономическим положением ее населения. 2. изд. дополн. 296 стр. 27. табл. СПб., Тип. Акл. Общ. § Брокгауз-Ефрон §, 1908 (EL-5730)

エス・エス・ハ(フルネーム不明)著

『住民の経済状態と関連したロシアの財政。増補二版』二九六頁 図表二七葉。ペテルブルグ、プロックハウス・エフロン版、一九〇八年刊。一冊

著者は不明。二葉亭の標記は、『露国財政』。

Серошевский, Валдав Леопольдович (1858-1945) —

Собрание сочинений. 2. изд. дополн. СПб., Изд. Н. Глаголева, 1904 2тт. (HN-10248 (12))

Т. 1. На краю лесов, повесть; Чукчи, рассказ.

2. Предел скорби, повесть; Китайские рассказы; Хайлак, рассказ.

二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

Ше ро ше ф с к и (ヴァツラフ・レオポルドヴィッチ)著

『作品集。増補二版』ペテルブルグ、グラゴレフ版、

一九〇四年刊。二冊

第一巻 森林地帯にて(中篇)。チエクチ人(短篇)。

第二巻 哀愁の果て(中篇)。中国の物語。ハイラ

ーク(短篇)

著者は、ポーランドの作家にして政治家。ポーランド社会党に加わり、ロシア官憲に捕えられて、一八七八年にシベリアへ流刑された。十五年間をシベリアで過ごし、主としてヤクート地方に滞在。この間にヤクート族およびツングース族の言語、習俗、社会生活を研究した。ポーランドに帰国後は文学活動に専念し、また神道研究の目的で来日したこともある。一九〇五年の第一次ロシア革命の際には、ふたたびポーランド社会党員として活躍し、再度捕縛されて国外へ追放された。パリおよびクラコウ(ポーランド南部)に住み、第一次世界大戦中は、対ロシアのポーランド軍に加わった。ポーランドの独立後は、宣伝省の大臣を勤め、のちに一九三一年までポーランド文学アカデミー総裁の任を果たした。二葉亭の標記は、『セロシエーフスキー氏文集』。本書は、明治四十年(一九〇七年)八月十九日「ビルスツキ(Пилгудский)から送られてきた

もの。またシエロシエフスキの、独訳本 Sieroszewski, Wacław: Sibirische Erzählungen; autorisierte Übersetzung von M. Sutram. 243p. il München, D.: J. Marchlewski & Co., 1903. と題する小形本が存するが、これは、同年十二月二十八日にやはりビルスツキーから受領したもので、表紙に二葉亭の自筆で、получено 28-го декабря 1907 г. от Пигудекаро. と書かれている。

Спальвин, Е. Г. — К характеристике трудов и направления г. Димитрия Позднева в области японологии. 1, Критический развор § Японской Исторической Хрестоматии § Часть 1, Отделение 1 и 2 г. Димитрия Позднева. 81 стр. Владивосток, Тип. Восточного Института, 1908 (45-2317)

スバルヴェイン (イエ・ゲ) 著

『ディミートリイ・ボズドネーエフ氏の日本学の分野における業績と傾向の性格づけ。その一。ディミートリイ・ボズドネーエフ氏の「日本国史読本」第一巻、第二、二部の批評的概観』 八二頁 ウラジヴォストーク、東洋学院版、一九〇八年刊。一冊

著者は、ロシアの日本学者。生年は明らかでないが、ラトヴィアのリガ市で生まれ、ペテルブルグ大学東洋学部を

卒業した。一八九九年四月、留学生として長崎に來日、東京で日本語を研究、のちに東京外国語学校の露語科講師を勤めた。これが縁故となり、同科主任教授であった二葉亭に師事し、尾崎紅葉の「多情多恨」や、新聞掲載の「一口断」などの読解を学んだ。一九〇一年、ウラジヴォストークの東洋学院日本語科主任教授として帰国、極東露領の地に二十五年間勤続した。一九二五年、ソビエト政府から東京のソ連大使館書記官に任ぜられ、ふたたび來日して日露親善に尽力した。スバルヴェインの日本および日本語に関する著書や訳書はきわめて多い。本書は、ボズドネーエフ (Д. М. Позднеев) の訳注に成る『小学日本歴史』(東京、一九〇六年刊) を批評した小冊子。二葉亭は、明治四十一年ペテルブルグへ赴く途中で浦塩斯徳に寄り、スバルヴェインから本書を買った。標記は、『スバリウイン氏著ボズドネフ氏ノ日本史ヲ評ス』。なお、彼の著書『横目で見た日本』(昭和六年・新潮社刊) 所収の「二葉亭長谷川辰之助」を参照されると興味あかい。

Спальвин, Е. Г. — Очерк основ языка и письменности японцев; вступительная лекция, произнесенная в Восточном Институте 2 сентября 1900 года. 32 стр. Владивосток, Тип. Сушинскаго, 1900 (45-2316)

スバルヴェイン (イエ・ゲ) 著

『日本人の言語と読み書きの基本について。一九〇〇年九月二日の東洋学院における序説的講義』 三二頁 ウラジヴォストーク、スシンスキ版、一九〇〇年刊。一冊

本書は、文語書簡文、漢文、漢字、片仮名、平仮名などの具体例を示しながら音訓を露文で解説し、大小各種の邦文活字を駆使して理解を促している。本書には、二葉亭の標記はないが、著者の署名入贈呈本である。小冊子ながらも擬革装の大型本で保存状態は良好である。

Толстой, Лев Николаевич (1828-1910) — Воскресение, роман с портретом автора. 408 стр. фронт. Спб., Изд. Н. С. Аксарханова, 1900 (FH-10238)

トルストイ (レフ・ニコラエヴィッチ) 著

『復活。著者の肖像を付した長篇』 四〇八頁 扉絵付 ペテルブルグ、アスカルハーノフ版、一九〇〇年刊。一冊

晩年のトルストイ伯の写真が扉絵として付されている。二葉亭の標記は、『トルストイ著 復活』。

Философов, Д. В. — Слова и жизнь; литературные

二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題

(FH-10252)

споры новейшего времени (1901-1908 г.). 324 стр. Спб., Тип. Аки. Общ. Тип. Дега, 1909

フィロンソフ (デ・ヴェ) 著

『言論と生活。現代の文学論争、一九一〇〜一九〇八年』 三二四頁 ペテルブルグ、印刷事業社版、一九〇九年刊。一冊

著者は未詳。ゴーリキー、ローザノフ (В. В. Розанов) などの文学論を中心に、宗教および信仰の問題、唯物論、小市民性などの風潮を論じたもの。二葉亭の標記は、『言葉及生活』。本書は、明治四十二年一月二十日 (新曆二月二日)、ペテルブルグにおいて、ルーブル二十五カベークで購求したもの。岩波版『二葉亭四迷全集』第十三巻所収「明治四十二年」参照。

Франс, Анатолий (1844-1924) — Остров Пингвинов; единственно разрешенный автором перевод с рукописи З. Венгеровой. 264 стр. Спб., Изд. § Шиповник §, 1908 (FD-11211)

フランス (アナトール) 著 ゼ・ヴェンゲローフ訳

『ペンギン島の島』草稿からの版權所有訳。二六四頁 ペテルブルグ、シボーフニク版、一九〇八年刊。一冊

二葉亭の標記は、『アナトリー・フランス作 ビンクウ
イノフ嶋』。L'île des pingouins. 1908. の露訳。

Фриче, Владимир Максимович (1870-1929) — Очерки
по истории западно-европейской литературы.
256 стр. илл. Москва, Изд. 8 Польза 8, 1908 (FH-9013)

フリーチェ (ウラジール・マクシモヴィッチ) 著
『西欧文学史概説』二五六頁 図版入 モスクワ、
「ボリーザ」版、一九〇八年刊。一冊

著者は、ソビエトの文学批評家で芸術学者。一九〇四年
から七年間、モスクワ大学で文芸学および文学史を講じ
た。のち、同大学文学部長となる。芸術の発展を社会的
見地から裏づけ、芸術形態は社会構成体の変化によって条
件づけられると説き、その相関性を図式的に規定した。ま
た、芸術作品と作家の階級的所屬との関係を分類してい
る。フリーチェはまた、日本文学の理解者で、帝制時代か
ら日本文学の研究に着手していた。『日本文学史概観』(一
九〇〇年)、『現代の日本の小説』(一九〇一年)、『林の学
校』(菅原伝授手習鑑の露訳、一九〇二年)、『日本文学の
過去と現在』(一九〇三年)、『日本の小説と物語』(一九〇
五年)などの業績がある。一九二二年の論文「芸術の社会
的意義」においては、忠臣蔵の物語が引用されている。二

葉亭の標記は、『西欧文学概観』で、諸文豪の肖像が三十
七葉収めである。本書は、明治四十二年一月十三日(新暦
二十六日)、ペテルブルグにおいて一ルーブル五十カペー
クで購求したものであろう。岩波版『二葉亭四迷全集』第
十三巻所収「明治四十二年」参照。

Чуковский, Корней Иванович (1882-?) — От Чехова
до наших дней; литературные портреты хара-
ктеристики. 3. изд. исправ. и дополн. 267 стр.
СПб. и Москва, Изд. М. О. Вольфа, 6. г. (FH-10245)

チュコフスキー(コルネーイ・イワノヴィッチ) 著
『チエーホフから現今まで。性格づけの文学的群像。
増補改訂三版』二六七頁 ペテルブルグおよびモス
クワ、ヴェオリフ版、刊年不明。一冊

著者は、ロシアの批評家で児童文学作家。本書は、チエ
ーホフ(A. П. Чехов)、『バリモント(K. Бальмонт)』、『ブ
ラック(A. Блок)』、『ウツイキフ(O. Дымов)』、『セルゲー
イフツェンスキー(S. Сергеев-Ленский)』、『クープリ
ン(A. Куприн)』、『ゴリキー(M. Горький)』、『スキター
ラン(Скиталец; псевд.)』、『カールメンスキー(A. Камен-
ский)』、『アルツィンシェフ(M. Арцыбашев)』、『チャル
コーフ(G. Чулков)』、『アルドーン(G. Ардов)』、『ロスマ

タレン(A. Роставлев)、『タシントン(E. Тарасов)』、『
トーティン(Я. Годин)』、『ソフンソフ(Д. Пензор)』、『
フシケヴィッチ(S. Юшкевич)』、『ソコトフ(Ф. Соло-
губ)』、『キインソフ(Б. Зайцев)』、『メルジューコフスキー
(Д. Мережковский)』、『ブリコソフ(В. Брюсов)』、『ア
ンドレーホフ(Д. Андреев)』などを論じた文献。二葉亭
の標記は、『チニコフスキー作 チエホフ以下諸文豪』。

Чупров, А. И. — По поводу указа 9 ноября 1906 г.
102 стр. Москва, Изд. М. и С. Сабашниковых,
1908 (FE-5115)
Хозяйственная последствия разрушения общи-
ны; Социальная последствия разрушения

общины; Фантазия и действительность в ар-
тарном вопросе; Борьба с малоземельем и
внутренняя колонизация.
Чупров(ア・イ) 著
『一九〇六年十一月九日付指令について』一〇二頁
モスクワ、サバーシニコフ版、一九〇八年刊。一冊
地方自治体崩壊の経済的影響。地方自治体崩壊の
社会的影響。農業問題における空想と現実。耕地
不足との斗争と国内植民。

著者は未詳。二葉亭の標記は、『一千九百零六年十一月九
日布達に際して』。

